

contents

〈展覧会紹介〉「ランス美術館コレクション 風景画のはじまり ―コローから印象派へ―」 [2～3]	
「永遠のアイドル麗子にあいたい！教科書で見る巨匠たちウッドワン美術館名品展」 [4～5]	
〈イベント報告〉「テレビアニメーション創成期から現在までの50年」 [6]	
―エイケン制作アニメーションの世界―	
「初公開 犬追物図屏風と江戸絵画名品展」 [7]	
「岡倉天心と茶道」 「新春展 アートのなかの動物たち」 [8]	
次回展覧会のお知らせ	[8]
美術館喫茶室ニホ特別メニューのお知らせ	
令和3年度 実技講座受講生・友の会会員募集のお知らせ	
休館日のお知らせ	

表紙：クロード・モネ(1840-1926)《ペリールの岩礁》(部分) 1886年 油彩/カンヴァス Inv.907.19.191 ©MBA Reims 2019 / Photo: C.Devleeschauer  
「風景画のはじまり」展より



# ランス美術館コレクション 風景画のはじまり

2021  
2.27(土) ▶ 3.21(日)  
会期中休館

【観覧料】  
一般 400円(団体1,200円)  
高校生300円(団体600円)  
小学生500円(団体400円)  
※団体10名以上、団体費は別途見積り  
※観覧料は別途発行  
※観覧料は別途発行

開催時間 / 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) ※2月27日(土)は午前11時から  
主催 / 福井県立美術館 共催 / 福井新聞社、福井テレビ  
後援 / 文化庁、フランス大使館、フランス観光振興局、日本 観光 / 日本観光  
企画・監修 / ランス美術館 Exposition produite et gérée par le Musée des Beaux-Arts de la VILLE DE REIMS EN FRANCE.  
企画協力 / フォントナスト

## Chapter 1 自然を旅する ～コローと19世紀風景画の先駆者たち～ Voyager dans la nature – Corot et les précurseurs du paysage au XIXème siècle.

フランスでは長く「歴史画」が描くべき主題の最高峰と考えられていた。革命を経て19世紀に入ると、一般市民も芸術に親しむようになり「風景画」や「静物画」の需要が高まります。初期の「風景画」は風景に歴史的人物を配する「歴史風景画」として成立した。真に自然と向き合い、自然そのものを主題とした「風景画」の誕生には産業革命や自然観の近代化などに伴う「風景の発見」を背景とした社会的要因が深く関わっています。

ジャン・バティスト・カミーユ・コロー (1796～1875) は歴史風景画家に師事し古典を学ぶ(造学したイタリヤの地で、明かき光に満ちた風景に魅了された。各地を旅し、戸外でのスケッチを制作し取り入れたコローの描く「風景」は、名所ではなく、どこにでもありふれた自然を詩情たっふりに描いたもので、現場の光を捉え再構成するという手法が後の画家たちに大きな影響を与えました。本展ではコローの師、シヤロン (1796～1822) やヘルタン (1767～1842) の作品と共に「風景画の誕生」を紹介し、

またギュスターヴ・クールベ (1819～1877) は写実主義(リアリズム)を代表する画家です。見たままを描くことを追求した彼は晩年パリを離れ、移住先スイスの山岳地帯において自然と向き合う中で(レマン湖の岸辺(急流))を生み出します。彼が再現された谷間の水の表現は、往年のダイナミックな海浜風景を思わせ、故郷を離れてもなお静かに燃え続ける画家自身の内面をうかがわせます。



ジャン・バティスト・カミーユ・コロー (1796～1875)  
《イタリヤの湖(急流)》1866～70年  
油彩 / シュワース 展 007.2.1



ギュスターヴ・クールベ (1819～1877)  
《レマン湖の岸辺(急流)》1876年頃  
油彩 / シュワース 展 007.19.73

## Chapter 2 バルビゾン派 L'Ecole de Barbizon



ジャン・フランソワ・ミレー (1812～1867) (1842～43年)  
油彩 / シュワース 展 007.19.227



ジャン・フランソワ・ミレー (1812～1867)  
《レマン湖の岸辺(急流)》1855年  
油彩 / 展 007.19.234



バルビゾン村はパリの南東約60km、かつては王侯貴族の狩猟地であったファンヌブローの森に位置する小さな農村です。鉄道の発達により都市との行き来が容易になる中、森や田園風景の画題を求めて訪れる画家が増えました。彼らの多くはコローの戸外制作にならい、自然の中で実際の光や風を感じながら作画することを実践しました。また、コローは彼ら後進画家らの面影を見て、支援したため「コローおじさん」と呼ばれ愛されていました。

本展では、バルビゾンに集まった画家のうち「バルビゾンの七聖」に数えられる作家の傑作をご紹介します。バルビゾンに引き、定住したナポレオン・ロワイヨン (1810～1865)、動物画家として名を馳せ、オランダ絵画の伝統をも引き継いだコンスタンタン・トロワイヨン (1810～1865)、ヌゾーを慕ったナタリス・デュア・ド・ラ・ハルニエ (1808～1876)、ジュール・デュプレ (1811～1889)、シヤルメル・フランソワ・ド・ビニー (1817～1878) は小舟「ボタン号」をアドリエと名乗って絵画を描き、徹底した戸外制作を行いました。また、コローに「田園風景と樹のミクランジュロ」と呼ばれたアンリ・ジョゼフ・アルビユー (1819～1916) など、バルビゾン村には100名を超える画家が訪れ風景画制作が盛んに行われました。近代におけるフランス風景画の挑戦と発展を感じていただける作品の数々をご紹介します。

# ランス美術館コレクション ついに福井到来!

新型コロナウイルス感染拡大により、フランスからの作品輸送が困難となったため令和2年4月の開催が中止となった「風景画のはじまり～コローから印象派へ」展。会期を変更し、満を持して開催します!

## Chapter 3 版画に見る 戸外制作 En plein air du point de vue de la gravure

19世紀の産業発展は版画技術も飛躍的に向上させました。風景画を描いた画家の多くは、油絵とともに版画による作品の制作も手掛けます。彼らの作品は版画、そして版画を挿絵とした書籍を通じて更に広く人々に親しまれていきました。



エウゼン・ブーダン (1824～1905) (オレーフィカ版) 1920年  
油彩 / シュワース 展 0481.08



エウゼン・ブーダン (1824～1905) (オレーフィカ版) 1920年  
油彩 / シュワース 展 0481.08

## Chapter 4 空を描く ～ウジェーヌ・ブーダン～ Peindre le ciel – Eugène Boudin.

ロード・モネに戸外制作を教え、印象派の先駆者とされるウジェーヌ・ブーダン (1824～1905)、彼は自然の中の光とその移り変わり、気象の変化を捉え、自身の絵画作品に再現することを追求しました。水夫の家に生まれ、港町ル・アーヴルに住んだブーダンの観察の対象は、空と海辺の大気であり、彼が光を捉え出す手法は、後の印象派の画家たちも光の再現へと導いたのです。コローや詩人ボードレールは彼を「空の王者」と呼びました。

## Chapter 5 印象を表す ～モネ、ピサロ、ルノワール～ Représenter l'impression – Monet, Pissarro, Renoir.



クロード・モネ (1840～1926) (リノール版) 1866年  
油彩 / シュワース 展 007.19.101



カミーユ・ピサロ (1830～1903) (カーボム複製版) 1902年  
油彩 / シュワース 展 007.19.205



ピエール＝オーギュスト・ルノワール (1841～1919) (複製) 1890年頃  
油彩 / 額に裏打ちされたシワース 展 0481.181

印象派それは初め、彼らの絵画を挿絵する記事に登場した言葉でした。当時の絵画の常識から考えると革新的すぎて、中々受け入れられなかった「印象派」の芸術運動。彼らが作品で表そうと試みたものは、自然の光や風でした。その手段として用いられた素早く乾く水彩画、藍色することなくカンヴァスの上にそのまま置かれた鮮やかな色彩は、当時の人々の目からすれば未完成と捉えられたのです。

しかし、印象派の画家たちの芸術理念は、実は近代の科学発展、技術発展と深い結びつきのあるもので、一見感情のままに描いたかに見える作品の裏側には非常に計算しつくされた構図、色面構成をうかがうことができます。例えばクロード・モネ (1840～1926) が「手つかずの海岸」に取り組んだ「ペガールの岩礁」では岩島の影と光、そして海の波紋の様子が克明に描きこまれています。画家は瞬一刻と変化を続ける自然の動きをカンヴァスに留める

ために、時には複数のカンヴァスを並べて光の移り変わりを記録しました。彼が光を捉える際に念頭に置いていたものは、対象における色彩の反映で、パレット上での混色によって絵具が混ざるのを選べるために絵具を原色のまま細かい筆致を用いてカンヴァスに置いていきました。この技法の結果により鑑賞者の視線の上で色が混色し、自然の光を感覚的に捉えた絵画が完成するのでした。また彼に戸外制作を実現させたものは、現在では一般的となっているチューブ入り絵具など、近代に開発された画材の数々でした。それまでは天然石を原料としていたため大変高価であった「青色」の絵具に代わるコバルトブルーが化学合成によって開発され、手に入りやすくなったことも彼らの可能性を広げる一環となりました。コロー、バルビゾン派の「自然の発見」からはじまり、光や風、気象の変化へと展開したフランスの「風景画」は、ここに円熟期を迎えるのです。

©M&B Reims, 2019/Photo: © C. Devleeschouwer





# 「写真家 みず や ち けん じ 水谷内健次の軌跡 1967-2021」

[会期] 2021年 4月23日(金)～5月30日(日)

移りゆく自然と人間の関係を記録した写真が高く評価されている福井在住の写真家・水谷内健次。作家の創作の全貌を回顧します。



競艇《300メートルレインボー・エッフェルタワー・プロジェクト(エッフェル橋、パリ)》1987年



舞踏派 背火 1977年



金曲風 1976年



移りゆく若狭 1979年



スペシャルメニュー

## 「自家製苺アイスと グランシャンパーニュ ジュレのパフェ」

二ホ自家製の苺アイスと、名門老舗  
ポールジローの発砲ぶどうジュース  
ジュレという、なんともスペシャル  
な組み合わせとなりました。

Contact

美術館喫茶室 **二ホ**

[open] 9:00～19:00

[closed] 月曜日

tel: 0776-43-0310 \*無料Wi-fi\*

address:

〒910-0017 福井市文京3丁目16-1  
福井県立美術館 正面左手

\*美術館が休館でも、  
月曜日以外は営業しております。

お知  
らせ

## 令和3年度 福井県立美術館 実技講座受講生の募集

福井県立美術館では「日本画」「洋画」「素描(デッサン)・水彩画」の基礎講座  
(4～5月・10回)と、同内容の専門講座(6～10月・25回)の受講生を募集します。

※詳しくは美術館ホームページ、または館内設置の募集要項をご覧ください。

◎定員

- 日本画(基礎講座・専門講座)／定員15名
- 洋画(基礎講座・専門講座)／定員15名
- 素描(デッサン)  
・水彩画(基礎講座・専門講座)／30名

◎募集期間

- 基礎講座 3月1日(月)～3月20日(土)まで
- 専門講座 5月1日(土)～5月20日(木)まで

## 令和3年度 福井県立美術館 友の会会員募集

詳しくは、  
事務局(TEL.0776-25-0452)まで  
お気軽にお問い合わせください。

年会費 一般会員 2,000円／家族会員 4,000円／特別会員 10,000円

特典  
(1)コレクション展・テーマ展無料  
(2)友の会ニュース・美術館だよりの無料配布  
(3)美術展・実技講座・美術講座・見学会等各行事の案内  
(4)美術館の主催する企画展の入場料の割引(2割引)  
(5)一般会員：年間に1枚の企画展無料入場券  
家族会員：年間に3枚の企画展無料入場券(展覧会は自由に選べます)  
特別会員：年間に8枚の企画展無料入場券+年間に1枚の図録贈呈券

申し込み 4月1日受付開始 ※郵便振替・口座振替によるお申し込みはできません。  
入会受付は福井県立美術館利用サービス室(友の会事務局)まで。